

2 話し合い活動を通じた情報モラル指導の考え方

1. 情報モラルの態度の育成

情報モラルの指導で難しい点は、授業で学習したことを実際の生活で実行できるようにすることです。ネット社会でトラブルの加害者や被害者にならないようにするために、ルールやマナーを教えることはもちろん大切ですが、それだけでなく、実際に行動できる態度を育成することが必要不可欠です。

そのためには、他人にありのままの自分を知ってもらおう自己開示のエクササイズや、自分を再発見するためのフィードバックを通して、自己理解を深める学習活動を取り入れることが効果的です。

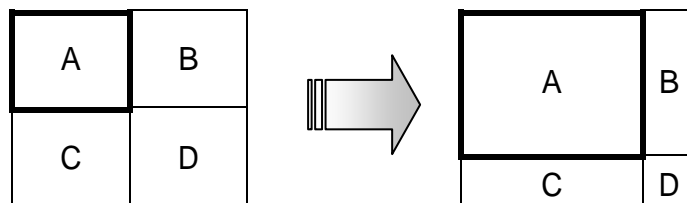
2. ジョハリの窓

ジョハリの窓とは、自己理解を深めていこうとする概念の1つで、この概念の提唱者であるアメリカの心理学者、ジョセフ・ルフトとハリー・インガムの2人の名前の頭文字を取って名付けられたものです。自分に関する事柄を「自分が知っている」か「周囲が知っているか」の2つに分け、この2つを組み合わせることによって下の図のA、B、C、Dのように4つの領域を作り出し、B～Cの領域をAの領域に変えていくことでさらなる自己理解を深めていくことを目指すアプローチの1つです。

例えば、人に迷惑がかかるとは自分では気付かずにやってしまうといったことや、逆に、人に気付かれなければこっそりやってもかまわないと思ってやってしまったことが問題になったとします。これを解決するためには、ジョハリの窓というところの、「盲目の窓」や「隠された窓」を小さくし、「明るい窓」を広げていくことが大切です。このような指導を、情報モラルの指導に取り入れていくことが大切です。

「ジョハリの窓」

	自分が知っている自分	自分が気付いていない自分
周囲の人が知っている自分	A：【明るい窓】 自分も他人も知っている自分	B：【盲目の窓】 自分は気付いていないが他人は知っている自分
周囲の人が気付いていない自分	C：【隠された窓】 自分は分かっているが他人は気付いていない自分	D：【未知の窓】 自分も他人も気付いていない自分



自分は知っているが、他人は気付いていない C の窓を小さくすることで、A の窓は大きくなります。(自己開示)

B の窓を小さくし、A を大きくしていくことで、自分というものが再発見できます。(フィードバック)

3. 自己開示

自己開示とは、自分自身を他人に対してオープンにすることです。「自分が見る自分」と、「他人が見る自分」との差を少なくすることにより、心理的な負担を軽くすることができます。自己開示は、ジョハリの窓でいう、「明るい窓」を「隠された窓」の方向に押し広げるのに効果的です。「隠された窓」だった部分を、「明るい窓」に変えることができます。

大切なのは、「人には知られたくはない部分」を他人に見せるのを怖がらないことです。「ひょっとしたら嫌われてしまうのではないかと思ったけれども、言ってしまったら気持ちが楽になった」という経験を味わわせることも大切です。

4. フィードバック

フィードバックとは、自分自身について他人からコメントをもらうことです。コメントを受けることで、自分自身を振り返り、成長することができます。ジョハリの窓でいう、「明るい窓」を「盲目の窓」の方向に押し広げるのに効果的です。「盲目の窓」だった部分を、「明るい窓」に変えることができます。

大切なのは、他人のコメントを素直に受け取ることです。そのためには、コメントを返す側も悪いところばかりを言うのではなく、よい点は褒めるなど、相手への思いやりの気持ちをもって接することが大切です。

5. 演習の組み立て方

自己開示やフィードバックの演習は、構成的グループエンカウンター（SGE）の中でよく扱われますが、必ずしも形式どおりに行う必要はありません。

本資料では、その手法を用いたいくつかの演習を用意しました。指導展開を組み立てるときには、比較的心的負担が低い「自己開示」の活動から始めて、徐々に「フィードバック」を取り入れていく方がやりやすいでしょう。

自己開示の中でも、自己紹介はフィードバックを伴わないので話しやすい活動です。このような簡単な自己開示の練習期間を経て、少し話しにくいタイプの、「私はこう考えた」とか「私はこう思う」といった自己主張タイプの、深い自己開示の活動に入っていた方がよいでしょう。

フィードバックは、自己開示の活動がこなれたころ、徐々に取り入れていくのがよいでしょう。ただし、このときも、「あなたはこんな事を行ったのですね」といった事実を確認するだけのフィードバックから、「あなたの事をこう思う」といった聞き手の判断や助言等を交えたフィードバックへと、徐々に深めていった方がよいでしょう。

最終的には、「私はこう思う」という自己開示と、「あなたの事をこう思う」というフィードバックとを、なんの懸念もなく演習できるようになると、クラスの雰囲気はよくなるばかりではなく、情報モラルの態度を育成することも期待できます。

